

平成 29 年度行政評価 市民参加ワークショップ 提案のまとめ

1. 概要

<日時>

第 1 回 平成 29 年 8 月 26 日(土) 13:30~17:15

第 2 回 平成 29 年 9 月 9 日(土) 13:30~17:15

<場所>

札幌市中央区民センター2 階会議室

<検討テーマ>

地域で支える介護～私たちにできること～

<参加者数>

45 名(1 回でも参加した市民の数)

2. 各グループの提案概要

【中央区グループ】

「ハート DE 見守り気持ち反映循環プロジェクト」として、特に「循環」を強く意識して、高齢者の見守り等に関する検討が行われた。「何かに困っている人」と「何かをやってあげたい人」の「マッチング」の大切さが挙げられ、マッチングのため、高齢者の「要望・情報の収集」を行う必要性が意見された。また、見守りという取組を回していくための軸としてポリシーが大切だという意見が挙げられた。

【北区グループ】

「“私がはじめる” みんなでつながるプロジェクト」として、どうやって高齢者と地域住民が「つながる」かという検討が行われた。高齢者と地域住民のつながりづくりに SNS や TV データ放送などの IT を活用するという意見が挙げられた。

【東区・白石区グループ】

「多様なコミュニケーションを取れる施設を近くにつくるプロジェクト」として、特に「施設」を作ることを目指した検討が行われた。「施設」を作ることにについて議論されたが、「ハード面よりソフト面のアイデアが大切」であることが挙げられ、取り組むプログラムについて多く議論された。プログラムとして、「ワークショップなどを行って『自分ごと』にする。」などの意見が出され、これらの取組の情報発信の必要性についても意見が挙げられた。ハード面については、交流拠点として、近隣の既存施設・空きスペースを活用が提案された。

【厚別区・清田区グループ】

「ゆる～いつながりづくりプロジェクト」として、「お手伝いをする・受けるときの作法・気持ち」に重点が置かれて意見交換が行われた。お手伝いの「仕組み」として、それぞれが高齢者に対してできることを明らかにする「できる事回覧・コミュニティノートの設置」、「コーディネートする人が必要」であることが挙げられた。「問題の深刻さを相手に伝えられること」の大切さについても意見が挙げられた。

【豊平区・南区グループ】

「セカンドカルチャースクール」として、高齢者が生涯学習を通じて人生を有意義に送るための「スクール」のあり方について検討が行われた。高齢者の「これから」「生き方」についてのアプローチや、様々な事業があっても活用できていないという現状から、介護の実態を知る必要があることが挙げられた。また、モデル地域が先進的な取組を発信することにより、自然と周知にもつながっていくのではないかという意見が挙げられた。

【西区・手稲区グループ】

「えんがわプロジェクト」として、高齢者が気軽に集う「えんがわ」のあり方について検討が行われた。多世代交流を目指す意見が多く挙げられ、交流の場として、既存の施設の活用、地域ごとの特色を活かすなどが提案された。また、担い手についても議論され、ボランティアの確保に向け、大学・専門学校へのボランティア募集や市の広報誌を活用といった取組などが挙げられた。

3. 仮指摘に反映させた市民意見

※ 資料 3-1 における仮指摘事項案③に反映させている主なワークショップの市民意見は下記のとおり。

【認知症に関する戦略的な取組】

<戦略的な広報活動>

- ・ 高齢者の「要望・情報の収集」が必要。
- ・ 支援制度はいろいろあっても利用につながらないことから、介護制度の勉強会などを開くなど、周知が必要。
- ・ 介護の実態を知る必要がある。様々な事業があっても活用されていない。
- ・ 札幌で行われている活動を知らない人が多い。
- ・ 本人・家族のサービスを利用しようとする心構えをどう育てるか。

<地域でつながる仕組みづくり>

- ・ IT を「人とのつながり」づくりのために積極的に活用する。
- ・ つながりづくりとしては、日頃の挨拶や、地域の行事への参加等の必要である。
- ・ 交流拠点として、近隣の既存施設・空きスペースを活用する。
- ・ つながりづくりのための仕組みづくりには、コーディネートする人が必要である。
- ・ 互助のためには、気軽に参加しやすい仕組みづくりが必要。
- ・ 担い手であるボランティアの確保が必要。大学や専門学校でボランティア募集や、市の広報誌を活用して広報を行う。
- ・ 地域と企業がつながることで地域コミュニティが活性化し、高齢者を支えることにもつながっていくのではないか。
- ・ 多世代が交流できる取組や場所づくり。
- ・ 定期的に任意参加のイベントを開く。
- ・ 孤独、引きこもりにならないためにも、つながりが重要。
- ・ 困っている高齢者がどこにいるか把握する。
- ・ 遠方の親族より、近所の他人の方が助かる場合が多い。
- ・ ネットワークが広がれば、孤立を防げる。
- ・ 近隣との関わりを持つことで、孤独死を防げるかもしれない。